

**「県立高校改革推進プラン・第2次実施プログラム（案）」県民説明会 説明の概要**

**第Ⅰ部**

**これまでの県立高校改革の流れと「県立高校改革推進プラン・第2次実施プログラム（案）」について**

県教育委員会はそれぞれ10年を計画期間とする、3つの計画・プランを策定してきました。それぞれ、県立高校のあり方に関する基本的な考え方を示したものです。現行のプランは、「県立高校改革推進プラン」です。

これらの計画やプランでは、計画期間内の基本的な考え方を示すにとどめており、何年度に、どの学校で、どのような取組みを行うといった具体的な内容は各計画・プランに基づき策定する「実施プログラム」で示すこととしています。

本プログラム（案）の策定にあたっては、これまで地域協議会や地域フォーラム等を実施し、学校関係者、地域関係者をはじめ、有識者等、幅広く御意見をいただき、案策定の参考としました。

令和7年5月26日に実施した教育委員会会議において、「県立高校改革推進プラン」に基づく、2つめの具体計画である「第2次実施プログラム（案）」を報告し、公表したところです。プログラム（案）は、現在、高等学校等就学支援金の制度改正等の動きがある中で、公立高校の果たすべき役割を踏まえた魅力ある県立高校をつくるという観点から、教育内容と施設・設備の充実を図る内容となっております。

本プログラム（案）は、5つの柱で構成しています。

1つ目は、人口減少地域である、県東部や南部に所在する小規模校の活性化と地域を支える人材の育成です。多古高校、市原高校を地域連携協働校に指定するとともに、地域ならではの資源を活用した、地域社会に関する学びを導入します。多古高校では、成田空港に近接する立地を生かし、グランドハンドリングとよばれる地上支援業務や、保安検査場業務等、空港関連人材の育成を目指し、関係部局と連携した学びを実践します。市原高校では、すでに実施している地域の歴史や文化、産業を学ぶ「市原地域探究」を引き続き実施するなど、地元市と連携しながら、地域で活躍する人材の育成を図ります。

2つ目は、水産系高校の学びの魅力化です。令和6年度に開催した「千葉県水産系高校あり方検討会議」でいただいた御意見等を踏まえ、各高校が所在する地域の特性を生かした水産教育の更なる充実を図ります。具体的には、銚子商業高校では洋上風力発電に関する学びを、大原高校では栽培漁業やマリンレジャーに関する学びを、館山総合高校では沿岸漁業に関する学びを充実させていきます。さらに、3校が所在する地元市等と連携し、県内遠隔地からの生徒募集に係る受入体制づくりの検討を進めます。

3つ目は、工業系学科の学びの魅力化です。令和9年度に、東総工業高校の4学科を3学科に、茂原樟陽高校の3学科を2学科にするとともに、実習設備の更新も含めて、学びの魅力化を推進します。また、県内の工業系高校10校に、地元企業と連携して学ぶことにより、実践的なスキルを習得する、デュアルシステムを導入します。

先に5つ目の「進学指導重点校の更なる充実」について御説明いたします。

柏高校と佐原高校の2校に、令和9年度から単位制を導入します。単位制を導入することで、生徒の学習ニーズに応じた多様な選択科目の設置等を通じて、進学実績の更なる充実を図るものです。更に、これまで以上に、先進企業や大学等との外部機関との連携を図り、理数教育の充実を図ります。

4つ目の少子化への対応と多様なニーズに応える新しい学校づくりです。今回のプログラムでは、少子化に対応するため、都市部にある3組6校の全日制普通科高校を、いずれも令和10年度に統合し、適正規模化を進めます。これら統合校においては、施設・設備の改修を進めるとともに、学びの多様化学校、総合学科、新しいタイプの定時制や通信制の課程等を設置するなど、学びの魅力化を推進します。

次に、統合の背景について御説明いたします。

千葉県の公立と私立高校の全日制・定時制の全生徒数は、平成元年の25万2千人をピークに急速に減少し、令和5年度には約15万人となり、おおよそ10万人の減少となりました。このような生徒数の減少を受け、これまでの計画・プランにおいても県立高校の再編、統合を行ってまいりましたが、生徒数の大幅な減少に対し、学校の統合については、慎重に検討のうえ、進めてまいりました。

全国の状況を見てみますと、学校数のピークは、昭和63年度の5,512校、生徒数のピークは、平成元年度の564万4千人となります。また、令和6年度の学校数はピーク時から679校少ない

4, 833校で、同年度の生徒数はピーク時から272万1千人少ない292万3千人であり、ピーク時の約半数ほどとなりました。

学校数、生徒数ともに減少傾向にあります。生徒の多様なニーズの高まりとともに、通信制高校に進学する生徒は増加しています。令和6年度、通信制高校に通う生徒は29万人となり、そのうち5分の4は私立高校で学んでいます。

次に、これからの人口推移の見込みについて御説明いたします。文部科学省の資料によると、平成22年には約121万人いた15歳人口が、約30年後の令和20年には約50万人減り、約74万人となることを見込まれている状況です。このことは千葉県でも同様で、現行のプラン策定時の推計によれば、計画期間中の令和4年3月から令和14年3月の10年で、中学校卒業者が6,200名、40人学級換算で155学級分減少することを見込まれています。

県では今後見込まれる中学校卒業生数の減少への対応として、プランの計画期間中に10組程度の統合を予定しているところです。

また、千葉県の県立高校には9つの通学区、すなわち学区が設定されています。第1学区から第3学区を「都市部」と第4学区から第9学区を「県東部や南部」としています。県では、県立高校1学年あたりの適正規模として、都市部では6～8学級、県東部や南部では4～8学級を設定しています。船橋及び八千代会場は第2学区、柏会場は第3学区にあたり、都市部となりますので、6～8学級が適正規模となります。都市部では、適正規模を下回る学校や将来的に適正規模の維持が困難となることを見込まれる学校あるいは同じタイプの学校が近接している場合において、適正配置を考慮しながら、規模を最適化するため統合を行い、特色や個性を持った、より魅力ある学校への再編を行うとしています。以上が現在お示ししている、統合に関する基本的な考え方となります。

## 第Ⅱ部

### 船橋豊富高校と船橋北高校について

最初に、船橋市の中学校卒業生の推移について御説明します。プラン策定時の推計によると、令和4年から令和14年の10年間で、約500人減少する見込みとなっております。

船橋豊富高校の募集学級数については、平成31年までは、1年生から3年生ともに6クラス募集でしたが、令和2年に5クラス募集となり、令和3年から令和6年までは4クラス募集でしたが、令和7年度から3クラス募集となりました。募集定員に対して志願者数が占める割合を表す志願倍率については、令和4年度から4年連続で0.6倍に至っておらず、定員未充足の状況が続いています。

船橋北高校の募集学級数については、都市部の適正規模である6～8学級を、令和5年度以降、5学級募集となっており、下回る状況となっております。志願倍率については、令和3年度以降、生徒募集に苦慮している状況が続いています。

以上のように、船橋市において、中学校卒業生は減少傾向にあり、今後も減少する見込みです。また、船橋豊富高校、船橋北高校においては、段階的に募集学級数を減らしてきましたが、志願倍率は生徒募集に苦慮している状況にあります。この状況を受け、統合により教育課程の柔軟な編成や、活力ある教育活動の展開を目指すものです。

船橋豊富高校と船橋北高校の両校の距離は、約2.8kmあり、自転車では11分の距離です。

また、統合校では、船橋豊富高校の校舎を使用します。統合校で使用する校舎は、統合後の教育活動に対応できる教室や施設設備、敷地面積、施設面積などを踏まえ、生徒の通学の利便性等を考慮して選定しています。

両校の生徒の自治体別の通学状況としては、両校とも、船橋、白井、八千代、鎌ヶ谷の4市から通学している生徒がともに4分の3以上であり、両校の通学圏は共通しています。

続けて、統合校の目指す姿について御説明いたします。

教育課程について御説明いたします。設置課程は全日制の課程になります。設置学科は普通科を改編して総合学科になります。総合学科とは主体的に科目を選択して学習できる「単位制」の学科です。国語、数学といった、共通科目と、専門的な学びができる科目が幅広く開設されており、自分の興味・関心、進路希望に合わせた学習ができます。

総合学科では、幅広い科目が開設されますが、関連の深い科目をまとめたグループである、「系列」を設定することとしています。統合校の系列については、4つの系列の設置を想定しており、両校の学びを継承しつつ、従来の枠にとらわれない特色ある学びを取り入れます。設置する系列の例としては、あくまで名称は仮称ですが、船橋豊富高校の福祉コースを継承しつつ未来型福祉に関する学びを取り入れた「ウェルビーイング系列」、そして情報コースを継承し、プログラミングやeスポーツ等に関する学びを取り入れた「情報クリエイター系列」、3つ目は、スポーツの盛んな船橋北高校の伝統を

継承した健康や体力づくりに関する学びの「スポーツ科学系列」、4つ目として、実用英語技能検定等の資格取得や大学等への進学に対応した「一般教養系列」を予定しております。

令和10年度の新しいスタートに向けて、また、新しい学びの導入にあたっては、ICT等の最新機器の整備や、校舎の外壁塗装、トイレ等の改修も併せて実施する予定です。

校名、制服、校章等について御説明します。統合校の校名については両校の教職員から構成される統合準備室を中心に検討を進めます。広く県民にアンケートを行うとともに、両校の保護者会や同窓会等からも意見を伺い、案を考えていきます。校名検討委員会で案を決定し、複数の案を持って県教育委員会に提出します。最終的には、千葉県議会で決定します。その他、制服、校章、校歌、校旗なども統合準備室で検討していきます。

続けて、在校生の皆さまに向けた御説明を行います。

現在、船橋豊富高校と船橋北高校に通っている在校生については、卒業まで現在の高校で学ぶことになります。卒業時の高校は現在の高校ですが、卒業後の4月以降に皆さまが行う、卒業証明書の発行などの手続きについては、統合校が引き継ぎます。

続けて、これから両校を受検される皆さまへの御案内を申し上げます。

今年度受験される令和8年4月入学生は、3年生に進級するときに統合となります。3年生の1年間、新しい学校の校舎で学びます。船橋北高校で学んでいた方は、新校舎に移動します。3年生の学習については、前の高校の普通科の教育課程で引き続き学習を続けます。卒業時には、新しい高校の生徒として卒業し、卒業証書は新しい学校名になり、卒業証明書には旧校名、統合時期等が記載されます。

来年度受験される令和9年4月入学生は、2年生に進級するときに統合となります。2年生と3年生の2年間、新しい学校の校舎で学びます。1年生の時に船橋北高校で学んでいた方は、新校舎に移動します。2、3年生の学習については、前の高校の普通科の教育課程で引き続き学習を続けます。卒業時には、新しい高校の生徒として卒業し、卒業証書は新しい学校名になり、卒業証明書には旧校名、統合時期等が記載されます。

現在中学1年生の皆さんが、受検生として令和10年4月に入学する際には、総合学科1期生として入学します。したがって、令和10年度には、船橋豊富高校の校舎に、総合学科の1年生と、普通科の2、3年生が同じ校舎で過ごします。なお、令和11年度は総合学科の1、2年生と普通科の3年生が同じ校舎で過ごします。令和11年度末に、最後の普通科の生徒が卒業するとともに、普通科を閉じることになります。

## 沼南高校と沼南高柳高校について

最初に、柏市の中学校卒業者の推移について御説明します。プラン策定時の推計によると、令和4年から令和14年の10年間で、ほぼ横ばいの状況ですが、令和16年以降、大きく減少する見込みとなっております。

沼南高校のクラス数は、令和7年度現在、全学年4クラスです。志願倍率については、平成31年度以降、生徒募集に苦慮している状況が続いています。沼南高柳高校は、令和7年度現在、1年生が5クラス、2、3年生が6クラスです。募集定員に対して志願者数が占める割合を表す志願倍率については、令和7年度入試では1.0倍を越えていますが、令和3年度から6年度にかけて、1.0倍を切る状況が続いていました。

以上のように、柏市において、中学校卒業者は令和16年度以降、大きく減少する見込みです。また、沼南高校、沼南高柳高校においては、都市部における適正規模を下回っており、生徒募集にも苦慮している状況にあります。この状況を受け、統合により、新しいタイプの学校をつくり、教育課程の柔軟な編成や、活力ある教育活動の展開を目指すものです。

沼南高校と沼南高柳高校の両校の距離は、約7kmあり、自転車では26分の距離です。

また、統合校では沼南高柳高校の校舎を使用します。統合校で使用する校舎は、生徒の通学の利便性や、統合後の教育活動に対応できる教室や施設設備などを考慮して選定しています。

両校の生徒の自治体別の通学状況としては、柏市、松戸市から通学する生徒が約7割を占めていることがわかります。

続けて、統合校の目指す姿について御説明いたします。

教育課程について御説明します。統合校では、定時制の課程と通信制の課程を併置します。定時制の課程と通信制の課程を併置することで、生徒一人一人の生活スタイルや学習ニーズに合わせて、柔軟に学ぶことができることから、県内初のフレキシブルスクールという呼称を付けました。

定時制の課程では、午前部、午後部の昼間二部制定時制課程で1日4時限の授業を基本とし、4年間での卒業となります。ただし、他部の授業や通信制の課程を履修することで、3年間での卒業を可能とする柔軟な学び方ができます。

通信制の課程では、オンラインを併用したスクーリングとレポートの電子化を推進します。また、定時制の課程を履修することもできます。そのため、通信制の課程においても、卒業までに4年を要する生徒が多いところ、3年で卒業することができる柔軟な仕組みとすることを考えています。また、定時制・通信制ともに、2学期制を導入し、秋季入学、卒業も可能とします。

不登校経験がある生徒や日本語を母語としない生徒等、多様なニーズに応じた教育課程を編成するなど、個別最適な学びを推進します。また、県立我孫子特別支援学校清新分校との併設を生かした「共生社会」の学びを取り入れます。

令和10年度の新しいスタートに向けて、また、新しい学びの導入にあたっては、ICT等の最新機器の整備や、校舎の外壁塗装、トイレ等の改修も併せて実施する予定です。

校名、制服、校章等について御説明します。統合校の校名については両校の教職員から構成される統合準備室を中心に検討を進めます。広く県民にアンケートを行うとともに、両校の保護者会や同窓会等からも意見を伺い、案を考えていきます。校名検討委員会で案を決定し、複数の案を持って県教育委員会に提出します。最終的には、千葉県議会で決定します。その他、制服、校章、校歌、校旗なども統合準備室で検討していきます。

続けて、在校生の皆さまに向けた御説明を行います。

現在、沼南高校と沼南高柳高校に通っている在校生については、卒業まで現在の高校で学ぶことになります。卒業時の高校は現在の高校ですが、卒業後の4月以降に皆さまが行う、卒業証明書の発行などの手続きについては、統合校が引き継ぎます。

続けて、これから両校を受検される皆さまへの御案内を申し上げます。

今年度受験される令和8年4月入学生は、3年生に進級するときに統合となります。3年生に進級した際に使用する校舎については、統合校で使用する沼南高柳高校の教室数や施設の規模等を考慮し、現在検討中です。3年生の学習については、前の高校の普通科の教育課程で引き続き学習を続けます。卒業時には、新しい高校の生徒として卒業し、卒業証書は新しい学校名になり、卒業証明書には旧校名、統合時期等が記載されます。

来年度受験される令和9年4月入学生は、2年生に進級するときに統合となります。2年生、3年生のときに使用する校舎については、令和8年4月入学の方と同様に、検討中です。2、3年生の学習については、前の高校の普通科の教育課程で引き続き学習を続けます。卒業時には、新しい高校の生徒として卒業し、卒業証書は新しい学校名になり、卒業証明書には旧校名、統合時期等が記載されます。

現在中学1年生の皆さんが、受検生として令和10年4月に入学する際には、フレキシブルスクールの1期生として入学します。したがって、令和10年度には、統合校では、定時制の課程午前部・午後部の1年生及び通信制課程の1年生と、全日制課程普通科の2、3年生が所属することになります。令和11年度は定時制、通信制の1、2年生と全日制的3年生で構成されます。令和11年度末に、最後の全日制的生徒が卒業するとともに、全日制的課程を閉じることになります。

## 八千代東高校と八千代西高校について

最初に、八千代市の中学校卒業者の推移について御説明します。プラン策定時の推計によると、令和4年から令和14年の10年間で、中学校の卒業生数は、約240人減少する見込みです。

八千代東高校の募集学級数については、令和7年度現在、1、2年生が7クラス、3年生が8クラスという状況です。募集定員に対して志願者数が占める割合を表す志願倍率については、令和7年度入試では、1.0倍を超えていますが、令和3年度から6年度にかけて、1.0倍を切る状況が続いていました。

八千代西高校の募集学級数については、都市部の適正規模である6学級を平成30年度以降下回る状況となっております。令和7年度現在、1年生が4クラス、2、3年生が5クラスという状況です。志願倍率については、令和4年度以降、生徒募集に苦慮している状況が続いていました。

以上のように、八千代市において、中学校卒業者は減少傾向にあり、今後も減少する見込みです。また、八千代東高校、八千代西高校においては、生徒募集に苦慮しています。特に、八千代西高校では、令和4年度から定員未充足の状況が続いています。この状況を受け、統合により、教育課程の柔軟な編成や、これまで以上に、活力ある教育活動の展開を目指すものです。

八千代東高校と八千代西高校の両校の距離は、約6.2kmで自転車で27分です。

また、統合校では、八千代東高校の校舎を使用します。統合校で使用する校舎は、統合後の教育活動に対応できる教室や施設設備、施設面積などを踏まえ、生徒の通学の利便性等を考慮して選定しています。

両校の生徒の自治体別の通学状況としては、両校とも、八千代、船橋、千葉、佐倉、習志野の5市から通学している生徒がともに9割以上であり、両校の通学圏は共通しています。

続けて、統合校の目指す姿について御説明いたします。

統合校は、全日制の課程、普通科を設置します。普通科には、県内公立高校初の学びの多様化学校をコース制として設置します。複数担任制や、スクールソーシャルワーカーやスクールカウンセラーを配置するなど、きめ細かな教育相談体制を整備します。さらに、生徒が自宅を含む教室外の場所でも授業を受けられるようにICT環境を整備し、遠隔授業によって学びの保障を図ります。

学校全体に単位制を導入し、個別最適な学びを展開します。また、少人数による習熟度別学習や協働的な学びなどを行うことができます。

加えて施設面では、今後八千代東高校では大規模改修工事を実施し、それに合わせて校内サポートルームを設置するなど、校舎の施設等の整備を進めていきます。その際には、校舎の一部がプレハブ校舎になる期間があります。

校名、制服、校章等について御説明します。統合校の校名については両校の教職員から構成される統合準備室を中心に検討を進めます。広く県民にアンケートを行うとともに、両校のPTA、保護者会や同窓会等からも御意見を伺い、案を考えていきます。校名検討委員会で案を決定し、複数の案を持って県教育委員会に提出します。最終的には、千葉県議会で決定します。その他、制服、校章、校歌、校旗なども統合準備室で検討していきます。

続けて、在校生の皆さまに向けた御説明を行います。

現在、八千代東高校と八千代西高校に通っている在校生については、卒業まで現在の高校で学ぶこととなります。卒業時の高校は現在の高校ですが、卒業後の4月以降に皆さまが行う、卒業証明書の発行などの手続きについては、統合校が引き継ぎます。

続けて、これから両校を受検される皆さまへの御案内を申し上げます。

今年度受験される令和8年4月入学生は、3年生に進級するときに統合となります。3年生の1年間、新しい学校の校舎で学びます。八千代西高校で学んでいた方は、新校舎に移動します。3年生の学習については、前の高校の普通科の教育課程で引き続き学習を続けます。卒業時には、新しい高校の生徒として卒業し、卒業証書は新しい学校名になり、卒業証明書には旧校名、統合時期等が記載されます。

来年度受験される令和9年4月入学生は、2年生に進級するときに統合となります。2年生と3年生の2年間、新しい学校の校舎で学びます。1年生の時に八千代西高校で学んでいた方は、新校舎に移動します。2、3年生の学習については、前の高校の普通科の教育課程で引き続き学習を続けます。卒業時には、新しい高校の生徒として卒業し、卒業証書は新しい学校名になり、卒業証明書には旧校名、統合時期等が記載されます。

現在中学1年生の再来年度受験となる令和10年4月入学生は、統合校の1期生として入学します。したがって、令和10年度には、八千代東高校の校舎に統合校の1年生と、両校の2、3年生が同じ校舎で過ごします。

## 連絡事項について

ちばづくり県民コメント制度によるパブリックコメントについては、令和7年7月25日（金）

まで行います。提出は千葉県教育委員会のホームページの「意見提出様式」に御記入の上、千葉県教育庁企画管理部教育政策課高校改革推進室まで、メールか郵送かFAXで送付をお願いいたします。本日、頂いた意見と合わせて公表いたします。

最後に、今後の予定について御説明します。頂いた御意見やパブリックコメントで頂いた御意見、また、校長協会、PTA、私学、市町村、教職員組合、産業関連団体等からも御意見を伺い、第2次実施プログラム策定の参考とさせていただきます。今後、十分に検討した上で、今年度内に第2次実施プログラムを策定する予定です。

説明は以上となります。